

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会
鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日 時 令和4年1月29日（土） 午後2時～午後3時30分
- 開催方法 ハイブリッド開催
〈現地参加会場〉鳥取県健康会館 鳥取市戎町
西部医師会館 米子市久米町
〈オンライン参加〉
- 出席者 25人
渡辺会長、廣岡部会長、山口委員長
岡田・尾崎・工藤・來間・小寺・小林一・小林哲・鈴木・角・瀬川・
林・前田・宮脇・山根・萬井各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：坂本課長補佐、坂本保健師
健対協事務局：岡本次長、岩垣課長、梅村・廣瀬両主事
県医師会事務局：高岸主任

【概要】

- ・令和2年度実績は、受診者数16,249人、受診率14.1%で、前年度より2.6ポイント減少した。要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度の全てにおいて国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。
- ・令和2年度の乳癌確定症例は96例であった。前年度の73例に比較して増加した。西部地区での発見症例が多かった。
病期に関しては、64名が早期癌症例であり、約3分の2の患者が早期癌だった。しかし、初回受診者からStageⅣ症例が2例発見されていた。
術式に関しては、乳房部分切除（乳房温存）が減少傾向であり、乳房切除率が64.6%だった。
- ・各地区読影会実施報告（令和3年12月末

現在）は、CAT3以上が東部4.74%、中部6.38%、西部6.06%だった。

- ・がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針が一部改正され、鳥取県においても指針に沿って乳がん検診実施に係る手引きの一部改正を行うこととした。がん検診の利益、不利益の説明方法については、検診の案内に記載する等、周知していくこととなった。
- ・国立がん研究センターが2020年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、令和2年は68.6（前年79.7）で、前年のワースト3位から23位。女性の死亡率は48.4（前年61.3）で、前年ワースト4位から6位。また、乳がんの死亡率8.6（前年11.6）で、前年の全国35位から10位に改善した。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

本日はコロナの感染状況を踏まえ、ハイブリッド開催とした。

コロナの感染状況は、1～2週間で急激な拡大がみられている。昨日は鳥取県においても196人の感染報告があり、まだ感染の広がりや強さが感じられる。特に西部地区においては市中感染がみられ、先生方におかれては、幅広く健康観察、あるいは適切な診断治療にご協力いただき、感謝申し上げます。

コロナ禍であっても、がん対策は鳥取県の大きなテーマであり、様々な角度から分析し、対策を行っていく。その中で令和2年の75歳未満の年齢調整死亡率が改善されたという良いニュースがあった。経過をみていく必要があるが、今後の対策につなげたい。

〈廣岡部会長〉

今回は急遽ハイブリッド開催とすることとした。令和2年の乳癌の死亡率が非常に良くなったが、鳥取県は母数が少ないことにより変動が大きいと思うところである。コロナの収束は見えないが、皆さんにご尽力いただき、コロナに打ち勝ち、検診受診率を上げて、乳癌の死亡率を下げていきたいと思う。本日はよろしく願います。

〈山口委員長〉

乳がんという疾患は男女合わせた全世界の中で、一番罹患数が多いがんということで取り上げられるようになった。日本国内でももうすぐ10万人に到達するくらいの罹患数となっており、鳥取県においてもますます対策をしなければならないと思っている。本日は活発なご意見を願います。

協議事項

1. 乳がん検診実施に係る手引きの一部改正について

○がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針が一部改正され、鳥取県においても指針に沿って改正を検討した。

〈主な改正点〉

- ・ 3. 検診の対象者に「また、受診を特に推奨するものを40歳以上69歳以下のものとする。ただし、対象者のうち受診を特に推奨するものに該当しないものであっても受診の機会を提供するように留意する。」を追記する。
- ・ 乳房エックス線検査の実施が、医師の立ち合わずに放射線技師が実施することが可能となった。このことについて、4. 検診実施機関へ追記し、乳がん検診実施計画書（様式例5）を追加。また、問診→質問に改正。
- ・ 国の指針では、乳がんの自己触診という文言は、「プレスト・アウェアネス（乳房を意識する生活習慣）」という表現に改正された。手引きの文言は改正するが、受診票は自己触診という文言は残したままとする。今後、プレスト・アウェアネスという言葉の普及啓発を行っていく。
- ・ 5. 実施方法に、（5）受診者への説明を追記し、がん検診の利益、不利益の説明を行うことを加える。説明方法については、検診の案内に記載する等、検討する。

2. 乳がん検診従事者講習会及び症例検討会について

コロナの感染状況にもよるが、令和4年8月頃に東部地区で開催する。

3. その他

一次検診のオプションで3D撮影し、3D写真の読影結果を検診結果へ反映していると思われる施設がある。3D撮影の結果を反映させると要精検

率、がん発見率が高くなる場合があるなど、正確な統計がとれなくなってしまうので、市町村が行う検診については、国の指針に従って、2Dで撮影した写真の読影結果を反映させ、3Dの撮影結果は、医療機関から直接受診者へ結果報告することと整理した。

報告事項

1. 令和2年度乳がん検診実績最終報告並びに令和3年度実績見込み及び4年度計画について

〈県健康政策課調べ〉：坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師
〔令和2年度最終実績〕

令和2年度対象者数115,469人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数16,249人、受診率14.1%で、令和元年度より2.6ポイント減少した。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数44,660人、受診者数11,637人、受診率26.1%であった。

要精検者数1,100人、要精検率6.77%で前年度より1.06ポイント増加した。精検受診者数1,049人、精検受診率は95.4%で、令和元年度より1.1ポイント増であった。

精検の結果、乳がん96人、がん発見率（がん／受診者数）0.59%、陽性反応適中度（がん／要精検者数）8.73%であった。令和元年度に比べ、がん発見率は0.21ポイント、陽性反応適中度は2.1ポイント増加した。

要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度の全てにおいて国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

〔令和3年度実績見込み及び令和4年度計画〕

令和3年度実績見込みは、対象者数117,878人、受診者数17,533人、受診率14.9%で、前年度並の見込みである。令和4年度実施計画は受診者数

17,832人、受診率15.1%で計画している。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：宮脇委員

- ・令和2年度実績は住民検診受診者数6,488人で令和元年度より1,551人減少した。年齢階層別ではすべての年齢階層で前年度より15～25%減少した。
- ・要精検率6.3%、がん発見率0.51%、陽性反応適中度8.09%。
- ・乳がん33例で前年度より10例増加、がん発見率は0.21ポイント増加した。
- ・そのうち、初回受診での発見乳がんは9名、病期Iでの発見が18例と半数以上を占め、病期IV以上の発見はなかった。
- ・MMGカテゴリー別では、C-3からの発見が15例、C-4で12例、C-5が6例であった。C-5からの発見乳がんは100%であった。
- ・年齢階層別では60～64歳での発見が多かった。

2. 地区症例検討会等について

令和3年度各地区読影会実施中間報告（12月末）は以下のとおりである。

東部（山口委員長）－東部医師会館を会場にして、週2回読影会を開催している。鳥取赤十字病院の装置故障のためフィルムに現像できなくなったため、今年度は院内読影を行っているため、読影会の症例数が減少している。

- ①読影会開催回数72回、②読影総数2,003件、③うち比較読影1,441件（71.9%）

読影委員症例検討会は新型コロナウイルス感染防止のため、開催を延期とした。また、乳がん検診マンモグラフィ読影委員会は3月上旬に開催する予定である。

中部（林委員）－中部読影会場にて、週1回読影を行っている。

- ①読影会開催回数28回、②読影総数956件、③うち比較読影696件（72.8%）

読影委員会は3月10日に開催予定である。

西部（鈴木委員）－西部医師会館を会場にし

て、週2回読影を行っている。

- ①読影会開催回数48回、②読影総数1,500件、③うち比較読影1,161件（77.4%）

症例検討会は3月に開催する予定である。

[読影結果]

	CAT1	CAT2	CAT3	CAT4	CAT5
東部	94.06%	1.20%	4.44%	0.25%	0.05%
中部	90.06%	3.56%	5.75%	0.52%	0.10%
西部	84.80%	9.13%	5.53%	0.53%	0.00%

各地区での症例検討会は、ログの確認及び受講中にカメラをオンにし参加している確認が取れば、Webの開催も可能とすることとした。

3. 令和2年度乳がん検診発見がん患者確定調査結果について：山口委員長

- ・令和2年度の乳癌確定症例は96例であった。近年の中では多い発見数であった。西部地区での発見症例が多かった。
- ・発見癌患者の平均年齢は63.7歳で前年度とほぼ同様であり、60歳代の患者が最も多かった。80歳代の患者も8例あった。
- ・病期に関しては、64名が早期癌症例であり、約3分の2の患者が早期癌だった。しかし、初回受診者からStageⅣ症例が2例発見されていた。
- ・年代と病期については、60～70代の方が早期癌割合が高かった。
- ・受診歴と病期については、2年前までに受診歴があった方の早期癌が多かった。
- ・術式に関しては、乳房部分切除（乳房温存）が減少傾向であり、乳房切除率が64.6%だった。

4. その他

(1) 乳がん月間(10月)の広報について：坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師説明

○ピンクリボンフェスタ実行委員会の方による広報

10月2日掲載の日本海新聞広告欄に、乳がん検診及びセルフチェックに関して普及啓発を図

った。県民によるがん対策促進事業補助金（補助率1/2）により実施。

○新日本海新聞社の自主事業により、10月掲載の日本海新聞「うさぎの耳」に乳がん検診及びセルフチェックに関して普及啓発が行われた。

○乳がんポスター、布製のバナーのポスターを更新した。

(2) 令和2年75歳未満がん年齢調整死亡率：坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐報告

国立がん研究センターが令和2年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、令和2年は68.6（前年79.7）で、前年のワースト3位から23位に改善。

女性の死亡率は48.4（前年61.3）で、前年ワースト4位から6位。

乳がんの死亡率8.6（前年11.6）で、前年の全国35位から10位に改善した。

(3) 共通資料から：坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

○平成30年の全国がん登録のデータに基づくがん罹患の状況（令和3年6月公表）

平成30年に新たにがんと診断された患者は全国で980,856人、鳥取県で5,001人（平成29年4,992人）。

人口10万対のがん年齢調整罹患率は、全国で385.1。鳥取県は411.0（47位：ワースト1位）（平成29年402.7 39位：ワースト9位）。

部位別にみると、男女計：①大腸②胃③肺④乳房⑤前立腺の順で罹患数が多くなっている。（前回と変化なし）

○国民生活基礎調査による飲酒量、喫煙率、平成28年国民健康・栄養調査（BMI、食塩摂取量、歩数、野菜摂取量）のデータが示された。コロナの感染拡大により調査が中止となっており、昨年と同じデータである。

(4) 令和4年度県予算事業について：坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐
新規事業として、がん予防でがん検診推進パートナー企業のうち、検診機関が出張対応を行わない従業員数が30人未満の小規模事業所等を対象とした県営職域がん出張検診の予算要求をしている。

(5) マンモグラフィ読影装置について：岡田委員
デジタル読影装置を東部地区に1台設置するよう、準備を進めている。他地区に関しては、装置が高額ということもあり、すぐに設置することはできないが、今後検討していく。将来的には、遠隔読影についても検討してほしいという意見もあった。

乳がん検診従事者講習会

日 時 令和4年1月29日(土)
午後4時～午後5時

(医師：39名、保健師：1名、その他
1名)

現地参加 〈会場〉鳥取県健康会館(鳥取県医師会館) 鳥取市戎町
〈会場〉鳥取県西部医師会館
米子市久米町

岡田克夫先生の司会により進行。

講演

オンライン参加

出席者 41名(健康会館：9名、西部医師会館：6名、Web：26名)

鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会
鈴木喜雅先生の座長により、松江赤十字病院 乳腺外科 村田陽子先生による「乳がん検診とプレスト・アウェアネス」の講演があった。